

I

出典 『なぜ古典を勉強するのか』（前田雅之）文学通信

藤原俊成の古典意識について説明された文章です。本文中に古典が引用されていますが、現代語の本文を丁寧に読み解くことで、俊成の発言の意図や古典意識が明確になります。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は①～⑥）

A唐突 b存外 c如実 d画期的 e漂流 f勃発 がそれぞれ正解です。「勃発」があまりできていませんでした。完全正答率は0%でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は⑦）

空欄 には⑦「当意即妙」が入りました。「当意即妙」とは「素早くその場面に適応して機転を利かせること」という意味です。正答率は17.8%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は⑧）

空欄 には④「飛躍」が入りました。直前の内容から、『源氏物語』の「うき身世に」歌と「見し秋を」歌との間に表現上の距離があることがわかります。正答率は13.3%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑨）

傍線部Aの直後とその次の段落から正答⑤が導けます。正答率は64.4%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑩）

傍線部Bを含む段落より二～四つ前の段落から正答③が導けます。正答率は88.9%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑪）

傍線部Cを含む段落より三～五つ後ろの段落から正答⑤が導けます。正答率は75.6%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑫）

傍線部Dの次の段落に、『源氏物語』の権威化について書かれているため、正答④が導けます。正答率は82.2%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑬）

傍線部Eの三～四つ後ろの段落の内容から正答⑥「『伊勢物語』」が導けます。傍線部E「古典」は、その一つ前の段落で「古典とは注釈のある本のこと」と定義されています。その具体例として『古今集』『伊勢物語』『源氏物語』が挙げられています。正答率は24.4%でした。

問9【文脈把握から意味を考える問題】（解答番号は⑭）

正答は④です。「顕」も「彰」も「明らかにする」という意味をもつことから、「顕彰」の意味を推測することができます。正答率は24.4%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑮）

傍線部Gの直後の本文から正答④が導けます。正答率は82.2%でした。

問11【内容理解による小見出し選択問題】（解答番号は⑯）

正答は②です。空欄甲の十～十一番目の段落がヒントとなります。正答率は37.8%でした。

問12【内容理解による小見出し選択問題】（解答番号は 17）

正答は⑤です。空欄乙の段落は一貫して俊成の古典意識について述べられています。正答率は66.7%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は 18）

正答は⑦・⑨です。⑦は最終段落から、⑨は四段落目・九段落目からそれぞれ導けます。完全正答率は20%でした。

II

出典 『知的人生のための考え方』（渡部昇一）PHP新書

知的生活の充実法や歴史を見る姿勢などを説き明かし、どのようにして人生を送るべきかを説いた啓蒙書です。わかりやすく書かれていますので、文意を掴むのは容易なはずです。

問1【漢字の書き取り・読みの問題】（解答番号は 19～23）

「肝要」や「療法」はまずまず書けていましたが、「心服」の正解者は少数でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は 24～26）

空欄 **I** は直前の「分かれ目」が、空欄 **II** は直前の段落が、空欄 **III** は直前の「心中に留めておきたい」がヒントです。正答率はそれぞれ44%、82%、33%でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 27）

傍線部Aより3つ後ろの段落に着目しましょう。③を選ぶ誤答が多く、正答率は24%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 28）

傍線部Bの直前の文を読めば正答は導けます。③を選ぶ誤答が多く、正答率は31%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 29）

傍線部Cの直前の文がヒントとなるでしょう。正答率は44%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 30）

傍線部Dの直前の段落から正答は容易に導けます。正答率は96%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 31）

傍線部Eを含む段落の4つ前の段落を読めば正答が得られます。正答率は82%でした。

問8【文脈を把握し指示語の内容を考える問題】（解答番号は 32）

傍線部Fの直前に出てくるカントの言葉から容易に正答できます。正答率は78%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 33）

問8と同じくカントの言葉から正答は明らかでしょう。正答率は82%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 34）

傍線部Hを含む段落の3つ後の段落に正解のヒントがあります。正答率は47%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は 35）

正答率は33%でした。第1段落で理性第一主義（啓蒙主義）の「理性だけが絶対」という考え
方への疑問が書かれ、第2段落で「現代人がいつのまにか洗脳された啓蒙主義」と書かれている
箇所がヒントとなります。⑦を選ぶ誤答が目立ちましたが、この節では啓蒙主義の歴史よりも啓
蒙主義の考え方を検討することに力点が置かれています。

問12【本文の内容を理解して該当するものを選ぶ問題】（解答番号は 36）

「闇」の部分に分類されるのは「光」が及ばないもの、「オカルト」の世界に入るもので、(ア)、
(ウ)、(エ)、(オ)、(キ)、(ク)、(ケ)の7つです。正答率は24%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は 37）

⑤は第1・2・6段落で説明されており、また⑥は本文12ページの3～9行目にほぼ同じ内容
が記述されています。①、⑦、⑨を選択する誤答が散見されました。①「『光』で『闇』を見る
ことを重ねることによって」が、⑦は「キリストは教えている」が、⑨は「友人に関する」が本
文に合致しません。正答率は4%でした。